

# No. 1424

## 近代農業への道

— 神奈川・平塚 —

神奈川県平塚市郊外にある野菜温室団地。何のへんてつもない温室に見えるのだが、実は日本で最初に省エネルギー対策用として実用化された温室である。12棟で3haあまりの温室はマイクロコンピューターにより野菜の生理にみ合った環境条件にコントロールされている。温室内の気温が上がりすぎると熱交換ファンが回り、地中に蓄熱、さらに天窓が開き温度の調節が自動的に行われる。気温が下がるとごらんのとおり、カーテンが作動、熱交換ファンが働き、地熱の放熱が開始される。農業経営を安定させるうえでも暖房費の節約が欠かせないものとなってきた今日、この省エネルギー温室はまさに画期的なものと言えよう。

## 冒険野郎がい旋

— 三重・長島温泉 —

昨年11月、気球による太平洋横断飛行を成し遂げた「ダブルイーグルV号」。ロッキー青木さんら日米4人の冒険野郎が結氷による高度低下、低酸素などの大自然と戦いながら飛行を続け、アメリカ西海岸に到達したというもの人類初の快挙でした。その「ダブルイーグルV号」が2月13日、出発地点となった三重県の長島温泉に帰ってきました。一般公開されたゴンドラは劇的な飛行を物語るかのようにいたるところ傷だらけ、集まった人々から感嘆の声が上がっていました。ロッキー青木さんも自らゴンドラのなかに入り、質問に答えるなど大サービス。サインに気さくに応じるロッキー青木さん。子供たちの胸に大きな冒険の夢がふくらんだようです。

中国残留孤児

## 肉親探しの旅

昭和20年、敗戦後の混乱した中国・東北地区（旧満洲）にとり残された中国残留日本人孤児一行60人が今年もやって来た。昨年が続いて今年で2回目一行は緊張した面もちで祖国の土を踏んだ。調査会場兼宿舎の東京・代々木のオリンピック記念青少年総合センターでは、さっそく面接調査が始まった。孤児たちは、わずかな手掛りでもと、真剣な表情で訴えた。一方、終戦時に肉親との生き別れの体験を持つ人の関心も高く、この日だけでも全国各地から350件の問い合わせがきた。肉親探しの緊張が続く中、一行は祖国で初の休日を楽しんだ。芦ノ湖では、遊覧船に乗って湖岸の景色に見とれた。待ちに待った肉親との対面、夢にまで見た父や母、兄弟と涙の対面、中国残留孤児の肉親探しの旅が続く。